

	育てたい力	具体的な授業改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> ● 国語の大切さや言葉がもつよさを認識するとともに、すすんで読書をし、思いや考えを伝え合おうとする態度を育む。 ● 語彙力を高めると共に、言葉の特徴や決まりについて理解し、日常生活に必要な国語の知識や技能を育む。 ● 対話を通じて伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりできるようにする。 ● 筋道を立て論理的に話したり、相手の話の要点を捉えて聞いたりする力を育む。 ● 読むことを通じて、新しい考えに気付いたり自分の考えを広げたりできるようにする。 ● 文章から、情景や心情を豊かに想像できる力を育む。 ● 目的に応じ、内容や要旨を捉えながら正確に文章を読む力を育む。 ● 目的や意図に応じて効果的な構成を考え、文章を書く力を育む。 ● 目的や意図に応じて情報を収集・選択し、それらを分類したり関係付けたりする情活用能力を養う。 ● 得た情報から自分の考えをもち、分かりやすく伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 選書や読書の時間を多く設けるとともに、学習に関連した本を紹介したり並行読書を行わせたりすることで、読書の幅を広げる。 ● 小テストやノート、提出物の指導で、漢字を正しく書く習慣を付ける。 ● 教材文の表現や語句を使って作文することで、文章表現力を高める。 ● 説明的な文章から、筆者の考え方について対話することで、自分の考えと他の人の考えを比べられる活動を行う。 ● 文学的な文章から、情景や心情を表す表現を見つけ、想像を深める。 ● 説明的な文章から、段落を分けたり要約したりする活動を通じて構成をつかみ、要旨を捉えられるようにする。 ● 文章を要約する活動を繰り返し行うことで、要点を押さえて読めるようにする。 ● 自分の考えを明確にし、文章の構成や効果的な表現を考えて書くようにする。 ● 事実と感想、意見などを区別して書くようにする。 ● 互いの文章を読み合うことで、分かりやすい文章表現ができるようになる。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ● 政治の仕組みや働き、国家及び社会の発展に大きな働きをした先人の業績や優れた文化遺産、我が国と関係の深い国の生活やグローバル化する国際社会における我が国の役割について理解する。 ● 地図帳や統計、年表などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付ける。 ● 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 ● 主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養う。 ● 歴史や伝統を大切に、国を愛する心情、将来を担う国民としての自覚や平和を願う日本人として世界の国々の人々と共に生きることの大切さについての自覚を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 政治の仕組みや働き、国家及び社会の発展に大きな働きをした先人の業績、我が国と関係の深い国の暮らしや文化などに着目して、学習問題を設定させる。 ● 学習問題を解決するために、どの資料を活用すればよいかを選択させ、適切に情報を読み取らせる時間を確保する。その際、教科書や資料集、タブレット端末などの複数の資料を活用することで、多角的に考えるように促す。 ● 統計などの資料に関しては、読み取り方を丁寧に指導し、変化の様子やその背景について考えさせる。 ● 出土品の写真や歴史的な資料、文化遺産などから、当時の人々の暮らしぶりを想像させる。 ● 児童が興味をもった社会的事象について、新聞や年表、リーフレットなどにまとめる時間を設け、主体的に学習を進められるようにする。 ● 写真や資料を印刷して渡し、児童がノート作りに役立てることができるようになる。 ● デジタル教科書やインターネット上の映像資料を活用することで、興味・関心を高めたり、資料の読み取りが苦手な児童の理解を助けたりする。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ● 数理的な事象に関心をもつとともに、数量や図形の性質などに着目して考察したり、論理的に考えたりすることのよさに気付き、すすんで生活や学習に活用しようとする。 ● 数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能の習得や活用を通して、日常の事象について論理的に考え表現したり、そのことを基に発展的、統合的に考えたりするなど、数学的な考え方の基礎を身に付ける。 ● 分数の計算をしたり、図形の面積や体積を求めたり、図形を構成したり、数量の関係などを表したり調べたりするなどの技能を身に付ける。 ● 数量や図形についての感覚を豊かにするとともに、分数の計算の意味、速さの意味、図形の意味及び数量の関係などについて理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 字形や単位の書き方、ノートの書き方などの基礎、基本を徹底し、ノートを正しい文字で書くことができるようにする。 ● 自分の考えを分かりやすく表現できるよう、継続的に指導を積み重ねる。ノートやワークシートの記入、数直線や図、グラフの活用、適切な言葉や正しい式で表すことなど必要に応じて用いることができるようにする。児童同士でノートを見せ合ったり、発表を聞き合ったりする活動を通して、よいところを学び合う環境を整える。 ● 問題解決学習型の授業を展開し、自力解決、集団検討の時間を十分に確保し、表現力・思考力を高められるようにする。 ● 図形の学習において、具体物に触れさせたり、実際に作成したりする活動を多く取り入れて、図形を感覚的に捉えられるようにする。 ● 単元終了時のワークシートでは学習の定着度を確認する。十分でないところは、家庭学習や朝学習の時間、休み時間の補習を行い、反復学習に取り組ませる。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ● 自然の事物・現象についての性質や規則性などについて理解をし、器具や機器を目的に応じて工夫して扱いながら観察、実験などを行い、それらの過程や結果を適切に記録する力を身に付ける。 ● 自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を基に考察して結論付けるといった問題解決の力を養う。 ● 自然の事物・事象に進んで関わり、粘り強く、他者と関わりながら問題解決するとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとする態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 目的を設定し、計測して制御するといった考え方に基づいた観察、実験を行い、器具や機器を正しく扱う技能を身に付ける。 ● 児童の疑問を大切にしながら仮説を立て、仮説検証するための問題作りを行う。また、生活経験を基に予想させるようにする。 ● 自分が既にもっている考えを検討し、より科学的な物に変容させて、より妥当な考えを作り出すことで結論を導くなど、自然の事物・現象を多面的に考えるような問題解決の力を育成する。 ● 既習した科学的事象や現象が、自分たちの生活の中にどのように活用されているのか事例を示すことで、日常的に理科学習への興味・関心を高める。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ● 曲想と音楽の構造などとの関わりを理解し、表したい音楽表現をするために、必要な技能を身に付け、味わって聴いたりする。 ● 音楽を形づくっている要素を聴き取り、どのように表現するか、思いや意図をもって取り組んだり、工夫しながら表現したりしようとして、味わって聴いたりする。 ● 音や音楽に対する関心をもち、音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 児童が表現したり聴いたりする活動を通して「できる楽しさと喜び」を体感できるよう、児童の実態を把握して指導計画をたて、ねらいを明確にする。また、1時間の中で音楽に触れている時間が長くなるよう、授業の流れや発問を工夫する。 ● 児童が知覚・感受したことを基に自分の思いや意図をもち、音楽表現の工夫に結び付けられるよう手だてを工夫する。 ● 学習の見通しを立てたり、学習の振り返りをしたりする場面を大切に、児童ができるようになったことを実感できるようにする。 ● 学習形態を工夫し、友達と関わりながら主体的に音楽活動できるようにする。
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ● 感じたことや見たこと、材料や場所などの特徴を基に表したいことを思い付いたり、形や色、用途や構成などを考えたりする。 ● 感覚を働かせたり経験を生かしたりしながら、表したいことに合わせて材料や用具を使い、様々な表し方を工夫する。 ● 親しみのある作品などの形や色などから、表現の意図や特徴を捉えたり、よさや美しさを感じ取ったりする。 ● 自分の思いをもって表現したり、鑑賞したりしながら、つくりだす喜びを味わおうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 児童の工夫を取り上げて紹介し、造形的な観点のよさに気付かせるとともに、作品づくりへの意欲を高める。 ● 木工などの難しい材料を使った工作などを取り入れ、児童の思いや考えを生かして計画的にものづくりができるようにする。 ● 互いの作品鑑賞を通して一人一人の児童が自分の作品が好きになり、自信をもてるようにする。 ● 友達との関わりをもちながら、安全に、安心して活動できる造形環境をつくる。 ● 活動中に賞賛や励ましの言葉を掛けたり、児童作品の提示を行ったりして、児童が自信をもって活動できるようにする。

<p>家庭</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分の成長と衣食住や家族の生活などについて関心を持ち、その大切さに気付き、家族の一員として家庭生活をよりよくするために、すすんで取り組み実践しようとする態度を養う。 ● 生活の自立の基礎として、日常生活に必要な衣食住や家族の生活などに関する基礎的・基本的な技能を身に付ける。 ● 衣食住や家族の生活などについて見直し、課題を見付け、その解決を目指して家庭生活をよりよくするために考えたり自分なりに工夫したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校での学習が家庭で生かせる場面を話し合い、自分の生活が家族や地域社会に支えられていることに気付き、感謝の気持ちをもつとともに、家族の一員として実践していこうという意識につなげられる活動を行う。 ● 季節に応じた生活の工夫を知るとともに、栄養を考え献立を立てた調理、洗濯表示に即した洗濯、ミシンを用いた裁縫の実習を行い、基本的な生活技術を身に付ける。 ● 自分の生活を振り返り、改善したりよりよくなったりできるところがないかを考える活動を行う。
<p>体育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、すすんで運動に取り組むとともに、協力、運動に応じた基本的な技能を身に付け、健康・安全に留意しようとする。 ● 自己の能力に適した課題の解決の仕方や運動の取り組み方を工夫する。 ● 運動の特性に応じた基本的な技能を身に付ける。 ● 病気の予防について関心を持ち、課題の解決を目指して実践的に考え、判断し、それらを表す。 ● 病気の予防について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● カリキュラムマネジメントを意識し、校外体育と体育館の使用を計画的に行う。 ● 運動の楽しさを味わえるように、運動の特性を学年で共通理解し、効果的な指導をする。自分のめあてに応じた課題解決の仕方を紹介し、学習の進め方や取り組み方を知って主体的に運動に取り組めるようにする。(学習カードの工夫をする。) ● ペア、トリオ、チームなどの学習形態を取り入れ、学び合いの場面を増やす。協力して運動に取り組む活動を、意図的に取り入れていく。 ● タブレットパソコンを活用し、自己の運動の様子を客観的に見て、課題を見いだせるようにする。 ● 病気の予防について、日常生活の実態に即して、適宜指導を重ねる。そして、より身近な課題として感じ取らせ、判断力や実践力を養う。
<p>外国語</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、語彙の働きなどについて、日本語と外国語の違いに気付き、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付ける。 ● コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて身近で簡単な事柄について話をするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちを伝え合うことができる基礎的な力を養う。 ● 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ● チャンツや歌などを授業冒頭に取り入れ、意欲的に聞いて発音させたり、語句や表現の音を理解させたりする。 ● ワークシートを用いて、設問に正確に答えたり、聞き取れた語句からおおよその内容を理解させたりする。 ● 文字の名称を聞いてその文字を選んだり、発音したりすることができるようにする。 ● 大文字や小文字を正しく書き分けられるようにする。 ● 基本的な表現を参考に一文や一部分を置き換えることによって、自分のことや身近で簡単な事柄について伝えることができるようにする。 ● 学習した語句や表現を理解した上で、自分の考えや気持ちなどを整理しながら伝え合わせる活動を取り入れる。 ● 黒板に單元ごとのポイントとなる語句や表現を掲示し、学習している語句や表現を正しく理解・活用できるようにする。 ● ピクチャーカードや電子黒板等の視覚的教材を効果的に取り入れて、新出語彙を正しく理解できるようにする。 ● 定期的に既習した表現や語彙を用いて、スピーチの内容を組み立てて発表を行い、プレゼンテーションの力を養う。 ● 定期的に既習した表現や語彙を用いて、ペアやグループでの話し合い活動を設定し、相手意識をもってコミュニケーションする力を磨く。 ● 振り返りカードにコメントを添えたり、学習活動中に称賛や励ましの言葉を掛けたりして、児童が自信をもって活動できるようにする。